

ノーモア・ウォー

大阪教育大学 池上 英明

◆2026年4月27日から5月22日までニューヨークの国連本部で NPT（核兵器不拡散条約）再検討会議が開催され、日本被団協を代表して濱住事務局長が標題の言葉を引用して訴えられました。

胎内被爆者である濱住さんは同じ被爆者である山口さんが、かつて国連で訴えた「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ウォー、ノーモア・ヒバクシャ!」を引用した後、「戦争をしたから核兵器が使われたのです。戦争はしてはいけないのです。核兵器も戦争もない世界の人間社会におけ、ともに力を尽くしましょう」と。

◆この訴えを受け、一刻も早く戦争をストップさせなければならない、そして、地球上から全ての核兵器を無くすまで、歩みを止めてはならないと、改めて感じました。これは、現在の国際情勢を考えると、実現不可能の様に聴こえるかもしれませんが、しかし、私たちは誓ったはずです。広島平和記念公園の慰霊碑には次のように記されています。「安らかに眠って下さい 過ちは繰返させぬから」

◆広島に投下された原爆は一瞬にして約14万人の命を奪ったと言われています。想像を超えるこの数字のおこうには、命ある人々がいたのです。大阪での空襲を避けるため広島に疎開した大橋正和さんは、原爆で命を奪われました。大橋さんの母は、後にこう述べられています。「（略）大阪の中学に入学したのですが空襲がたびたびあり、その後かたづけに出て死んだ人を掘りおこすのがつらくて、安住の地を求めて広島二中に転校してよろこんでいました。良くできた子どもでしたので、将来を楽しみにしてひとり疎開させましたのに、いちばん悲惨な最期をとげてしまいました。8月6日はおじの家に出かけるのに、少し行っただけで帰る、また、出かけては帰りして作業に行くのをためらったそうです。虫が知らせたというのでしょうか、別れがつらかったのだと思います。いたってまじめな子どもでしたので休むこともせず、思いきって出かけたのだでしょう」（「いしぶみ〜広島二中一年生全滅の記録〜」広島テレビ放送編 ポプラ社）そして、人々の命は、世界各地の戦争の中で、今も、この瞬間も同じように危機に瀕しているのです。

◆冒頭に述べた NPT 再検討会議では、残念ながら合意文書を作成することが出来ませんでした。しかし、合意を図るためにギリギリまで努力された世界中の人々がいたことも忘れてはなりません。「平和への道はない、平和こそが道なのだ」これはマハトマ・ガンジーが遺した言葉です。平和はゴールではなく、私たちが日々の暮らしの中で、自分を大切にすることと同じように、他の人を大切にする日々の営み、そして、戦争をやめろ！全ての核兵器を無くせと諦めずに声を上げ続けることです。冒頭の濱住さんの訴えと併せて、改めて考え、行動することが必要ではないでしょうか。